



井澤商店

放線菌 土壤微生物
連動性 バランス
作微生物 残渣
障害 土壤団粒化 分解

スターガード
IMP

商品説明資料

スタンダードIMPとは

プラスを狙うよりもまずは普通の土を狙う資材です
まずは普通の土、そこからより良い土になれば本望です

スタンダード

Standard

スタンダード 標準/基準

IMP

Improvement

インプルーブメント 改善/改良



Flat

フラット 傾きのない土へ

A close-up photograph of a person's hand holding a small, vibrant green seedling with two leaves. The seedling is growing out of a mound of dark, rich soil. The background is dark, making the plant and soil stand out.

良い土って
なんだろう？

- ✓ 肥料の効きが良い
- ✓ 土壌の病気が無い
- ✓ 虫害も無い
- ✓ 保水性、排水性がいい
- ✓ 収穫物は高品質

.....

このような土で野菜を栽培されている人は
一体何人いるのでしょうか？

よくお聞き
する話は

- 肥料が吸えていない
- 土壌の病気は毎年対策
- 線虫がいる
- 保水率高め、もしくは低め
- 収穫物の品質に悩む

⋮

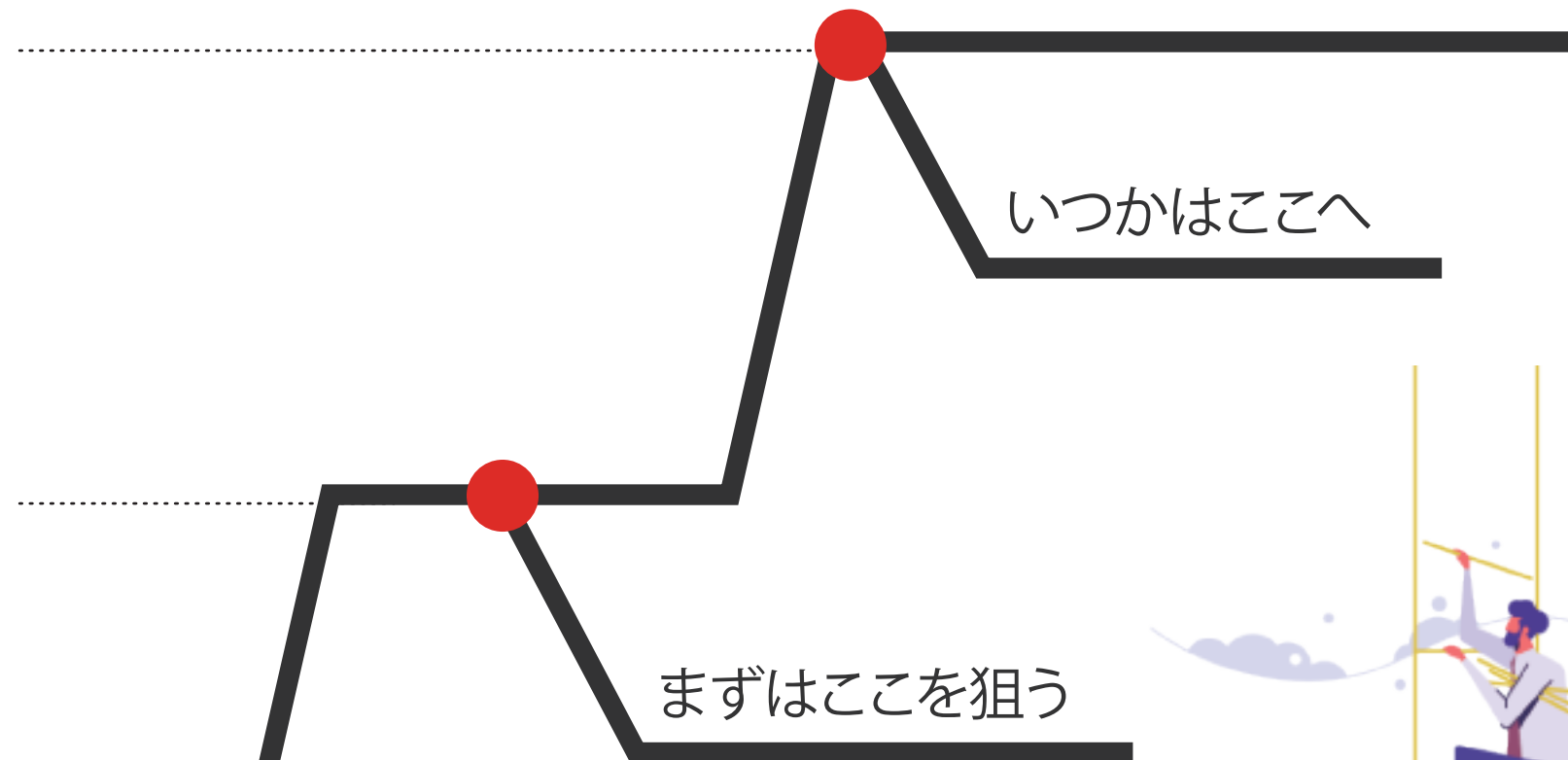
何かのトラブルを抱えた土で
作物を作るのがニュートラルな状態

土のグラフがあったら

良好

通常

不良



土壌改良におけるスタンダードIMP

土壌障害について上げられる3つの原因のうち、

1 | 物理性 … 排水性、耕板層等

2 | 化学性 … 残留肥料成分ph

3 | 生物性 … 微生物の土壌バランス

point.

製品に含まれる微生物の能力・性質を利用し、生物性に着目し土壌の改善を目指す資材です

スタンダードIMPの微生物

放線菌

土の中の有機物を分解する約50%の土壌有機物分解を担うとされている。
キチン質の分解も得意フザリウムに拮抗するといわれている微生物。

硝酸化成菌

土の中のアンモニア体窒素を硝酸体窒素へ変化。
土の栄養素(窒素)循環を担う微生物。

有機物 残渣の分解

スタンダードIMPは土の中の有機物の分解を得意とします。

前作で残った作物の根や茎、すき込んだ葉などを時間を掛けて分解します。

堆肥作りの発酵菌としても使用することができます。

稲作では収穫後の稲わらの分解資材としても効果的に使用できます。

土壌の団粒化

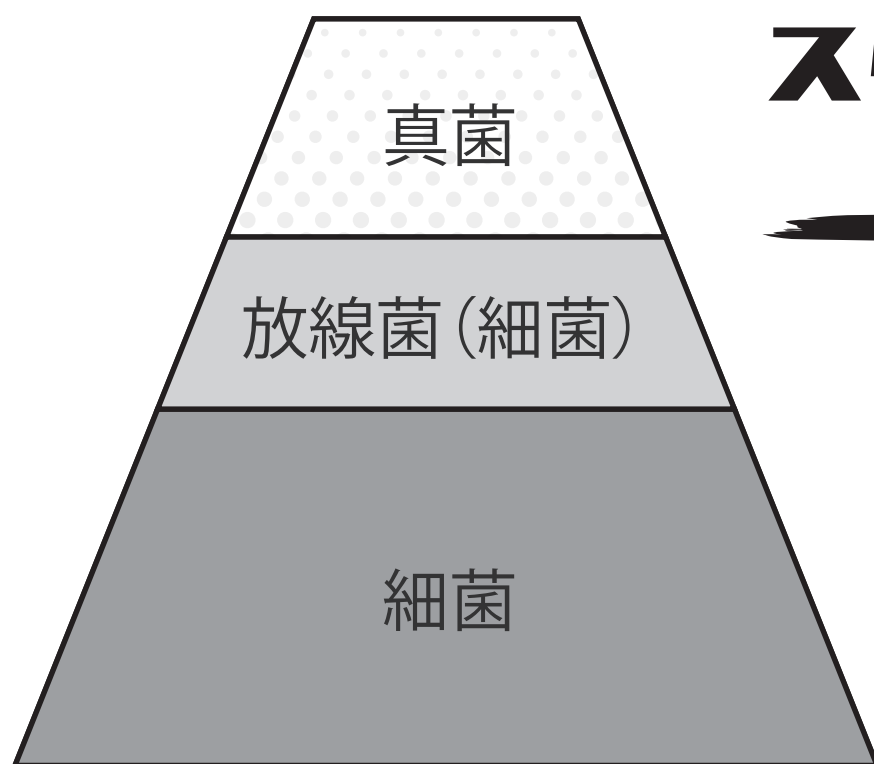
スタンダードIMPの放線菌は、有機物を分解しその結果として腐植質を生成します。腐植質は土壌団粒化を促進する接着剤のような役割を果たし細かな土粒子を結びつけます。

放線菌は、微生物の活動によって生成される代謝物を土壌中に放出し、これらの物質は、土粒子の表面に吸着することで団粒化の促進に活躍します。

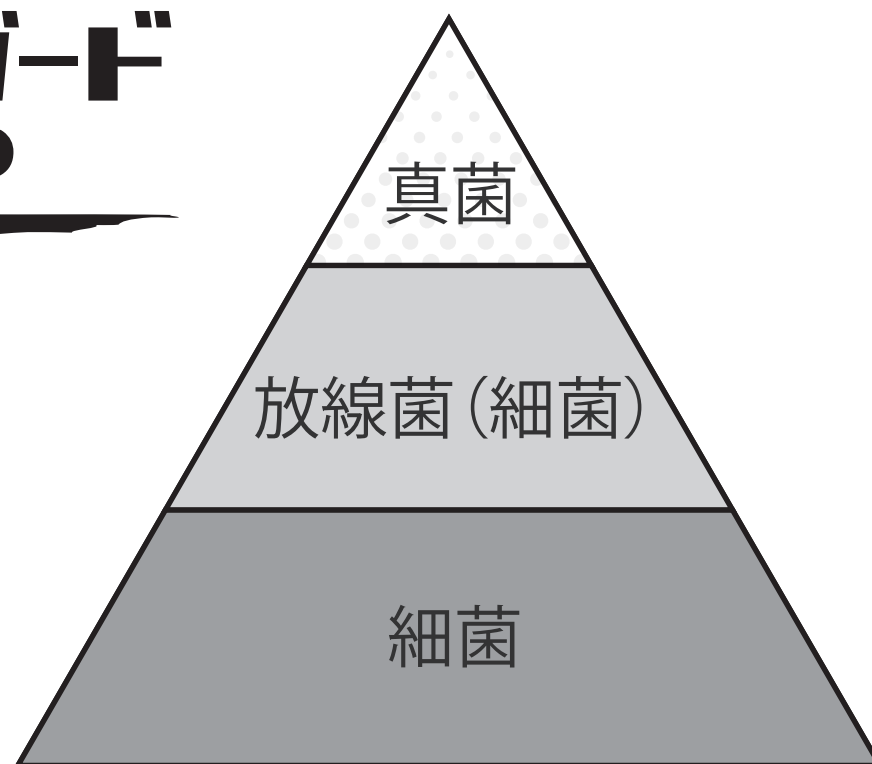
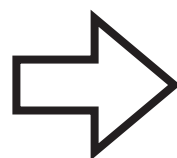


土壌の微生物バランス

土壌中に存在するさまざまな微生物、細菌、放線菌（細菌）、
真菌と土壌生物の相対的なバランスが整った土へ



**スタンダード
IMP**



食品残渣を使用した資材

食品から土へ、
良い土を作り野菜を栽培し食卓へ

食品残渣

肥料として土へ

食料分野の
循環型資材

新たな食へ

農作物の栄養

A background image showing several red tomatoes resting on a bed of dry straw and leaves. The image is dark and moody, with the tomatoes providing a pop of color.

肥料成分

● 標準成分例 ※保証成分ではありません

窒 素	リン酸	カリ	ケイ酸	石 灰	マンガン	ホウ素
2.2	4.2	0.6	11.2	8.0	0.07	0.02
C / N	C E C	腐食（有機 C 換算）			pH	水分
10	30meg/100g	33			7.2	30

スタンダードIMPには肥料成分の表記がありますが、

これは標準成分例といい、保証される成分ではありません。

製造工程上、食品残渣から出る肥料成分の表記になります。

ただし肥料とされる成分が含まれているのは事実、

無機化されて放出される超緩効性の肥料成分と考えてください。

※ 4ヶ月から8ヶ月で放出される分析も出ています（無機化試験）

スタンダードIMP

用途別

使用量の目安

果菜類 / 花卉類 / 果樹類

200kg ～ 300kg（10袋 ～ 15袋 / 10a）

葉菜類 / 根菜類

140kg ～ 200kg（7袋 ～ 10袋 / 10a）

稲わらの分解 / 残渣の耕運

40kg ～ 60kg（2袋 ～ 3袋 / 10a）

使用方法

■ 使用上の注意

- 定植前の元肥投入時に散布し耕うんする。
（深さは15 ～ 20cmが目安です。）
- 施用後、すぐに定植できます。
- 追肥時の使用は筋状に撒き、可能であれば軽く混和して下さい。
- 根に直接触れても障害はでません。
- プランターや育苗ポットでは、用土に対して約7%を混和します。